

作成日 2016/02/10  
改訂日 2018/02/20

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フロンクリート ローラー用 硬化剤
製品コード	607364-1
整理番号	HNT003932-2-1
供給者の会社名称	東日本塗料株式会社
住所	124-0006 東京都葛飾区堀切3丁目25番18号
担当部門	品質保証部
電話番号	0480-65-5880
FAX番号	0480-65-5798
緊急連絡電話番号	0480-65-5880
推奨用途及び使用上の制限	塗料

### 2. 危険有害性の要約 GHS分類

健康有害性	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 区分2 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A 呼吸器感受性 区分1 皮膚感受性 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器) 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。
-------	---

### GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
H315 皮膚刺激  
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
H319 強い眼刺激  
H330 吸入すると生命に危険  
H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ  
H335 呼吸器への刺激のおそれ  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き  
安全対策

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)  
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。(P260)  
ガスの吸入を避けること。(P261)  
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)  
粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)  
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)  
 保護手袋を着用すること。(P280)  
 保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)  
 呼吸用保護具を着用すること。(P284)  
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)  
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)  
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
 直ちに医師に連絡すること。(P310)  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)  
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)  
 特別な治療が緊急に必要である。(P320)  
 特別な処置が必要である。(P321)  
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。(P333+P313)  
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)  
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)  
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)  
 施錠して保管すること。(P405)

応急措置

保管

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報  
 化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
メチレンビス(4-フェニルイソシアネート)(4, 4'-ジフェニルメタンジイソシアネート)	25~35%	—	(4)-118	既存	101-68-8

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表)

メチレンビス(4, 1-フェニレン)＝ジイソシアネート(法令指定番号:599)(29.7%)  
 石油ナフサ(法令指定番号:330)(1%)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

メチレンビス(4, 1-フェニレン)＝ジイソシアネート(法令指定番号:448)(30%)

#### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

#### 5. 火災時の措置

消火剤

泡、乾燥砂、粉末、炭酸ガス

使ってはならない消火剤

水

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

環境に対する注意事項

関係者以外は近づけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

二次災害の防止策

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

排気用の換気を行うこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

保管	接触回避 安全な保管条件	『10. 安定性及び反応性』を参照。 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置 設備対策		工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護具	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具  皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。 眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。 顔面用の保護具を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質 外観	物理的状態 形状 色	液体 液体 黒褐色 特異臭 データなし データなし データなし データなし
臭い 臭いのしきい(閾)値 pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰 範囲 引火点 蒸発速度 燃焼性(固体、気体) 燃焼又は爆発範囲	下限 上限	215°C (クリーブランド開放式) データなし データなし データなし データなし データなし 4 × 10 <sup>-4</sup> Pa(25°C) データなし 1.22 データなし データなし データなし データなし
蒸気圧 蒸気密度 比重(密度) 溶解度 n-オクタノール／水分 配係数 自然発火温度 分解温度 粘度(粘性率) 動粘性率		データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし
10. 安定性及び反応性 反応性		非常に活性が強く、水、アルコール、アミンなどの活性水素化合物と反応し発熱する。塩基性物質やある種の金属化合物等の存在によって重合発熱する。
化学的安定性		非常に活性が強く、水、アルコール、アミンなどの活性水素化合物と反応し発熱する。塩基性物質やある種の金属化合物等の存在によって重合発熱する。
危険有害反応可能性 避けるべき条件		通常条件では危険有害な反応は起こらない。 加温、火気 水、アルコール、アミンとの接触は避ける。
混触危険物質		危険有害反応可能性参照

危険有害な分解生成物		情報なし
11. 有害性情報		
急性毒性	吸入	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分2に該当。(ミスト) 加成方式が適用できる成分からの判定:
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		区分2の成分合計が29%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2に該当。 加成方式が適用できる成分からの判定:
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		眼区分2Aの成分合計が29%であり、濃度限界(10%)以上のため、区分2Aに該当。 4, 4'-MDIが29% $\geq$ 1%のため、区分1に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		データなし
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		データなし
生殖毒性		データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		4, 4'-MDIが29% $\geq$ 20%のため、区分3(気道刺激性)に該当。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)		4, 4'-MDIが29% $\geq$ 10%のため、区分1(呼吸器)に該当。
吸引性呼吸器有害性		データなし
12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		データなし
水生環境有害性(長期間)		データなし
オゾン層への有害性		モントリオール議定書の付属書に列記された物質を含まない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
汚染容器及び包装		
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 Marine Pollutant Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code.	該当しない Not applicable Not applicable
国内規制	航空規制情報	該当しない 取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従う。

	陸上輸送 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、法令の輸送について定めるところに従う。
	海上輸送 船舶安全法に定めるところに従う。
	航空輸送 航空法に定めるところに従う。
	該当しない
	該当しない
	非該当
	非該当
	該当しない
	171
緊急時応急措置指針番号	
15. 適用法令	
化審法	優先評価化学物質(法第2条第5項)
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
消防法	第4類引火性液体、第四石油類
大気汚染防止法	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)
海洋汚染防止法	有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1)
16. その他の情報	
連絡先	東日本塗料株式会社
参考文献	溶剤便覧
	製品評価技術基盤機構(NITE)
	メーカーSDS
	日本工業標準調査会「JISZ7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
	日本工業標準調査会「JISZ7252 GHSに基づく化学品の分類方法」
	日本塗料工業会編集「容器イエローカード(ラベル方式)塗料マニュアル 改訂版」
	日本ケミカルデータベース製物質データベース
その他	[注 意] 危険性・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。
	この製品の製品安全データシートの記載内容のうち含有量、物理化学的性質などの値は、保証値ではありません。
	記載内容は現時点で入手できる資料、情報に基づいて作成しておりますが、すべての化学品には未知の有害性があり得る為、取扱いに当たっては細心の注意が必要です。

注意事項は通常取り扱いを対象としたものである為、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。又それらが実際の使用状況に相応しているか、環境保護の目的にそっているか、あるいは貴社の従業員の方々や貴社製品購入者の健康・安全を損なわないか等については、貴社の責任にてご判断願います。